

## 評価の基準について

### 【自己評価の基準】

#### (1) 事業の成果に対する評価

指針に掲げた目標に対して前年度末と当該年度の事業終了後と比較した結果を選定する。

1. 悪化〔前年度末と比較して状況が悪化〕
2. 横ばい〔前年度と同様の内容で継続〕
3. 改善〔新規事業の開始、規模拡大、内容の改善〕
4. 目標達成〔指針に掲げた目標の達成、または主な施策の事業完了〕

#### (2) 今後の方向性

1. 廃止、休止、終了〔事業の廃止、休止、終了、期間の満了〕
2. 一部廃止、縮小、統合〔一定の業務の廃止・休止、事業費の削減、他事業との統合〕
3. 拡充〔事業の拡大、事業費の増大が必要〕
4. 継続〔今年度と同様の内容で継続実施が必要〕

### 【審議会意見にあたっての視点】

文化振興指針に掲げた主な施策の実施状況について、自己評価の結果は妥当かを審議する。また、実施事業の内容について、次の視点をもって意見・要望・提案を行う。

#### (1) 有効性（計画の推進に貢献しているか）

1. 結果、成果を示す項目の実績値はどうか。順調に推移しているか。
2. 定期的に見直しを行っているか。それにより実績値が改善されているか。
3. 他事業と統合することで、より効果を高められないか。
4. 民間団体、市町村等と協働、連携することで、より効果を高められないか。

#### (2) 効率性（コストに見合う活動ができたか、コスト削減に努めたか）

1. 効果が最大となるための方法をとっているか。
2. 民間委託等より少ない経費で同等の効果を上げられる方法はないか。
3. 特定財源を活用する方法はないか。  
既収収入の増や新たな収入を確保できる方策はないか
4. 民間団体、市町村等と協働、連携することで、より効果的に実施できないか。

#### (3) 必要性（目的達成のために必要不可欠か）

1. 行政（県）の責任分野を超え、必要以上にサービスを提供しすぎているか。
2. 県が支援していることが逆に、県民、団体等の自主性、主体性を損なっていないか。
3. 国、市町村、NPO、企業等との役割分担は妥当か。協働、連携は十分か。
4. NPO、ボランティアの活動領域と重なっていないか。
5. 社会経済情勢が変わったにもかかわらず、（実質的に）継続していないか。

#### (4) 独自性（文化的・芸術的な視点はあるか、県民への周知は適正か）

1. 事業の文化的、芸術的、独創的な魅力を高める工夫があるか。
2. 県民の自主性、創造性を促す工夫があるか。
3. 情報発信は目的や対象に合致するデザインや情報媒体で行っているか。